

## 「第2期大分県循環器病対策推進計画(素案)」に対する県民意見

No.	項目	御意見	県の考え方及び反映状況
1	2(2)①迅速かつ適切に搬送可能な体制の構築について	<p>初療から治療に向けて、その時点で対応可能な施設の情報共有から一歩進め、当番制あるいは最低限、学会期間中の当番を数少ない専門医の間で話し合い調整する場が必要です。具体的には、心カテおよび脳血管カテの各々に治療フォーラム(研究会)を立ち上げ、年数回各施設の顔合わせ(コメディカル含む)、知識と診療実態の相互確認、さらに問診事項の共通化、当番制導入の有効性が先進地域において実証されています。</p> <p>利点として、場当たりの調整から脱却、医師の働き方改革への貢献があります。すなわち、二次元的な病床配置と搬送ルートからさらに時間軸を加えた三次元的な救急搬送体制の構築が望まれます。</p>	<p>一部地域では、救急医療に従事する関係者間で、地域の実情を踏まえた効率的な体制を検討するような場を設けているところもあります。県としては、こうした動きを後押しするとともに、必要に応じて関係市町村や地域医師会への働き掛けを行います。</p> <p>また、脳神経外科領域については、大分大学医学部と連携し、救急搬送の実態把握や、関係医療機関による情報共有・連携強化などの取組みを行っています。引き続き、適切な医療提供体制について検討していきます。</p>